

札幌トレセン大会報告書

2019. 1. 24

札幌4種技術委員会

<p>1、大会名・日程</p> <p>平成30年度 冬季プレミアU-12 サッカー大会</p> <p>2018年12月23・24日 札幌ドーム</p>
<p>2、参加選手（ ）内は所属チーム</p> <p>神 晴翔・大坂 恵也（石狩FC）藤木 良馬（LIV）阿部 翔成・鷹島 凌（クラブフィールズ）清水 彪雅（大谷地）中村 友哉・畑 嘉人（スポルティング）藤田 航（SSS札幌）田中 瑞己（札幌ジュニア）長谷川 幸輝（L-WAVE）宮口 啓太・野間 葵成・川地 一颯・千田 悠翔（コンサドーレ札幌）</p> <p>計16名</p>
<p>3、引率者名</p> <p>嶋田 雄二（SSS札幌）、笹岡 孝義（若葉ボンバーズ）</p>
<p>4、大会結果</p> <p>12月23日（日）</p> <p>v s 根室 4-0（鷹島・千田・野間・神） v s 小樽 3-0（畑・清水・大坂）</p> <p>12月24日（月・祝）</p> <p>v s 旭川 0-0 v s 北空知 1-3（清水）</p>
<p>5、成果と課題</p> <p>成果</p> <p>（攻撃）</p> <ul style="list-style-type: none">・GKやDFラインからのビルドアップを積極的にチャレンジし、ボールを保持する時間を多くしながら攻めることが出来た。また、空いたスペースをいち早く察知し、効果的に使うことで相手の守備に的を絞らせにくい状況が多く生まれていた。 <p>（守備）</p> <ul style="list-style-type: none">・全体のバランスを考えながら守備の立ち位置をとって、チャレンジ&カバーを行えた。・失点はすべてビルドアップが自陣で引っ掛かり、ショートカウンターを浴びたことによるもので、崩されるシーンは少なかった。 <p>課題</p> <p>（攻撃）</p> <ul style="list-style-type: none">・ボールを保持する時間は長いものの、ゴール前に侵入していく迫力やアイデア、コンビネーションが足りなかったために、チャンス数を多く作り出すことが出来なかった。 <p>（守備）</p> <ul style="list-style-type: none">・ボール状況に応じたポジショニングの修正や予測を持った準備をすることで主導権を握ったアグレッシブな守備を行うことが出来るようになると感じる。・GKを含むDF陣が中心となり、リスク管理や全体のバランスを整えることなどゲームに関わり続ける必要がある。